

南牧村におけるネズミ類の生態について

木村敏之（群馬県立自然史博物館）

ネズミ類による被害は多くの実例がある，しかし林業被害などに関する研究以外では被害に関連した研究はそれほど多くない．また群馬県では詳細なネズミ類に関する調査は少なく，県内のネズミ類については不明な点が多い．群馬県内では平成 18 年度にネズミ類の大発生が起こり，ネズミ類によると考えられる農業被害が多くみられた．これを契機に県内（現時点では特に西毛地域）のネズミ類の生息状況についての調査を進めている．ここではこれまで行ってきた調査についての現状報告を行う．

調査は下仁田町中小坂および南牧村大塩沢の 2 地点で実施している．調査地周辺は平成 18 年度においてネズミ類によると思われる農作物への被害が多くみられた地域である．調査地はいずれも農耕地及びそれに隣接する草地であり，下仁田調査地ではサツマイモ，ジャガイモ，キュウリ，インゲン，ネギなどが栽培されている．畑の西側には草地があり，近隣には人家も比較的多い．一方，南牧調査地では，調査地内においてシソ，サツマイモなどが栽培され，畑に隣接して草地が広がる．その近隣にはスギ植林地が分布する．

調査にはシャーマントラップを使用し，エサはサツマイモおよびオートミールを用いた．1 回の調査において下仁田調査地では 75-100 個，南牧調査地では 100 個のトラップを使用した．いずれも 1 晩のみの調査である．捕獲されたネズミ類は種類，性別，体重および外部形態（頭胴長，尾長，後足長，耳長）を計測後，指切り法によって記号して捕獲地点で放逐した．なお調査は平成 19 年 6 月より開始し，現在も継続中である．基本的に毎月 1 回の捕獲調査を実施している．

平成 21 年 2 月までの調査では，下仁田調査地ではハツカネズミ，アカネズミ，ヒメネズミ，カヤネズミが，のべ 43 個体捕獲された．南牧調査地ではアカネズミ，ヒメネズミ，スミスネズミ，カヤネズミが，のべ 85 個体捕獲された．捕獲数の多い南牧調査地について注目すると，捕獲個体数はアカネズミが卓越する（53 個体）．アカネズミはこれまでの調査期間を通じて常に優占種である．ヒメネズミは秋期において一時的に捕獲個体数が減少する傾向がみられた．スミスネズミは平成 19 年度の調査ではアカネズミ同様に多くの個体が捕獲されたが，平成 20 年 4 月から平成 21 年 1 月までの調査では全く捕獲されなかった．

捕獲個体の体重変動に注目すると，春期から夏期（4 月～9 月）にかけて急激な増加がみられ，9 月をピークとしてその後減少し，2,3 月に再び小さな増加がみられた．また未成熟個体の捕獲は春期から夏期（4 月～7 月）と冬期（12 月，1 月）のみにみられ，繁殖期は年 2 山型であることが示唆された．また指切り法により記号された個体は最長で 4 ヶ月追跡することが出来た．その結果，南牧調査地ではアカネズミは調査地全域（およそ南北 100m）にわたる行動範囲を持つことが示唆された．ただし，行動範囲は特定の地域に限られ，調査地全体を移動するのではないことが示唆された．

ところで特にスミスネズミに顕著だが，ネズミ類の個体群動態は年ごとに大きく変動することが観察された．これまでの結果は，今後の継続的な調査の必要性を示唆している．今後の継続的な調査による情報の蓄積によってネズミ類の出現パターンなどの解明を通してネズミ類の発生予測など，ネズミ類による被害対策にも応用できる可能性がある．